

移動手段の提供

生活協同組合コープさっぽろによる買い物バスの運行

～ あかびら店の展開と買い物バスの運行について～

1 概要

コープさっぽろは、高齢化が進む北海道赤平市において、「地域の再活性化を生協は支えられるのか」というソーシャルビジネスの実験事業として、市街中心地に出店し、併せて店舗への移動手段の提供として買い物バスを運行している。

2 背景ときっかけ

北海道では、以前は炭坑町として栄えた地域の多くで過疎化が進んでおり、赤平市もその一つである。そのような状況ではあるが、出店コストは低く抑えられ、また、地域の唯一の店舗として集中していけば経営は成り立つという考えから、地域の再活性化を支えるソーシャルビジネス的な実験として事業を開始した。

3 取組の内容

1. あかびら店の概要について

店舗立地：赤平市市街中心地（市立病院向かい）

地域組合員数：約5,000人（赤平市の世帯数の約7割）

経営状況：売上高は年間約15億円あり、設立3年で黒字化を達成予定

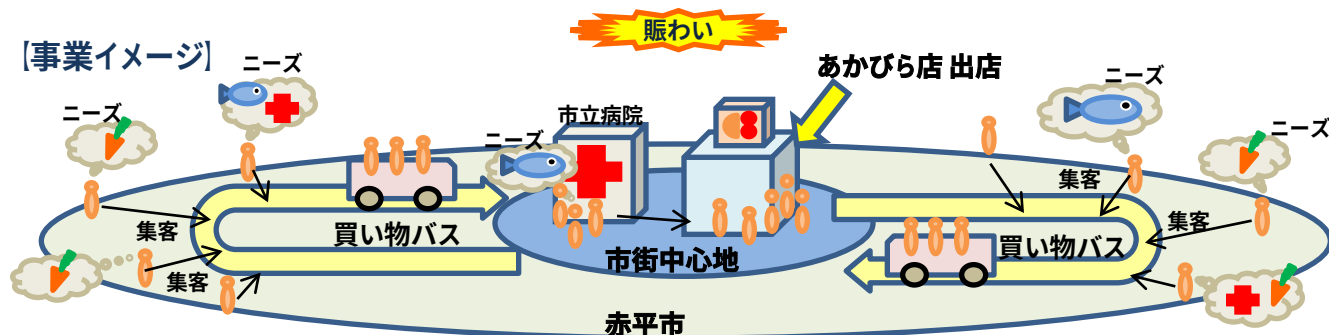
買い物バス：店舗を中心に2コース、1日計7往復を運行、料金は無料（組合員証の提示が必要）

店舗利用に関わらず乗車でき、週1,000人程度が利用

2. 行政との関係について

店舗出店、運営に関する補助は受けていないが、赤平市、小樽商科大学及び北翔大学と、産学官で高齢者の健康増進（歩いて店舗まで来られるように）の取組みを推進しており、店舗での広報や買い物バスの活用など地域と一体となった活動を行っている。

【事業イメージ】



4 取組の効果

- 市街中心地への出店と買い物バスの運行により、遠くの店舗に乗合バスで買い物に出かけるという不便が解消されている。
- 買い物バスの車中は、古くからの知人に再会するなど楽しい交流の場となっている。
- あかびら店が人の集まる場所となり、市街中心地に賑わいが戻ってきた。
- 買い物バスで来店して、帰りはタクシーを利用する人も多く、地域の交通産業の活性化につながっている。

5 取組上の工夫

- 一人暮らしの高齢者に配慮して、食べきりサイズの少量小分け商品を多く陳列。
- 市立病院の受付開始に合わせて、店舗開店の30分前には到着するバス便を設定し、集客効果が上がっている。
- バスは到着後10分間は停車するルールにしており、高齢者でも、店舗の待合室でバスの到着を確認後、ゆとりを持って乗車できるようにしている。

6 今後の展望

- 北海道の他の地域でも買い物バスの運行を計画しており、札幌市南区、釧路市では運行を始めている。事業的に成り立つ地域については、買い物バスと合わせての出店を検討していく。
- 地域の高齢化、過疎化の進行を食い止めるには、若者の雇用機会を作るだけでなく、都会的な生活の保障も大切であり、土地用途の自由な変更や地元の国有地・道有地を貸し出す仕組みを作り、一定規模の店舗を誘致しやすくする策が考えられる。

7 参 考

事業を実施している地域の人口等概要

赤平市

- 人口 14,401人
- 世帯数 6,202世帯
- 高齢者人口 4,988人 (34.6%)
- 飲食品小売店数 45事業所

※人口、世帯数及び高齢者人口は平成17年国勢調査、飲食品小売店は平成19年商業統計調査の結果による。

【問い合わせ先】 生活協同組合コープさっぽろ
住所：札幌市西区発寒11条5丁目10-1 電話：011-671-5710



【買い物バス】



【あかびら店外観】